

長野市行政DX推進ガイドライン策定のための懇話会 概要

日 時	令和8年5月29日（金） 午後1時30分から午後3時まで
会 場	長野市役所第二庁舎9階 会議室 291
出席者	委員） 国立大学法人 信州大学 情報・DX推進機構 DX推進センター 小澤 光興 長野県市町村自治振興組合 金原 平八 N T T東日本株式会社 長野支店 橋詰 将慎 職員） 総務部情報化推進グループ情報システム課 課長 春日 優、課長補佐 高橋 秀明、DX推進専門員 志知 貴文、 主査 湯本 倫也 協力会社） ロボフィス株式会社 高橋 忠義、田中 良樹、伊藤 楓
次 第	1 開会 2 あいさつ 3 自己紹介 4 長野市行政DX推進ガイドライン策定のための懇話会について 5 座長選出・あいさつ 6 長野市行政DX推進ガイドライン（素案）について 7 その他 8 閉会
意 見 ・ 質 問	① ガイドラインの位置づけ・更新方法 金原委員 （質問）ガイドラインは毎年度見直しするのか。 （回答）ガイドラインのうち重点取組事項は、各年度見直しを行う。 ② これまでの取組成果の扱い 橋詰委員 ・これまでの取組（R4～R8）の成果も示すべき。 ・市民も進捗を知りたいはず。 ③ ガイドライン全体の内容（評価・課題） 橋詰委員 ・柔軟なガイドライン型は先進的で分かりやすい。 小澤委員 ・非常によくできているが「教科書的」である。

	・どの自治体でも使える内容である。 ・長野市としての特徴が弱い。 ・長野市としての独自性、高度な内容が必要ではないか。 ④ 市民視点 橋詰委員 ・初見は職員向けの印象があるものの、市民に対して長野市の先進的な取組を発信する内容として有効である。 小澤委員 ・職員向けとしては初歩的に見える可能性がある。 ・「最初からやり直し」の印象を与える懸念がある。 ・策定の経緯・背景・考え方をより具体的な記載が必要である。 ・目的「総合計画に掲げる長野市の将来像の実現」を明記すべき。 金原委員 ・七面鳥の例は、長野市版に工夫できないか。 ⑤ 推進フロー（気づき→実行）の妥当性 金原委員 ・「気づき」を全て実行する前提だと負担増、「気づき」の共有に対する心理的ハードルが高まる懸念がある。 ・取組を進める初期段階で、情報システム課による支援が必要である。 ⑥ 組織統制・全体最適 橋詰委員 ・現場主体の進め方は良いが組織統制の視点が弱い。個人任せではなく組織で支援すべき。 ⑦ 実行促進（ロールモデル・推進方法） 橋詰委員 ・現場任せでは進まない可能性がある。 ・一定の仕組み化（組織として参加を要請する施策）による促進方法についても検討の余地がある。 ⑧ 人材育成（DX・IT スキル） 橋詰委員 ・研修だけでなく職員個々の IT スキル向上も必要である。 ⑨ 効果検証・評価 橋詰委員 ・効果検証には目標設定が必要である。
--	--

	⑩ モチベーション・インセンティブ 橋詰委員 ・表彰などの評価があると推進力になるのでは。 ⑪ 外部人材活用 小澤委員 ・DX推進には外部人材の活用は有効である。
--	---